Newsletter
Vol.20
2013. JUNE.
Graduate School of Mathematics
NAGOYA UNIVERSITY
名古屋大学 大学院多元数理科学研究科

春は新しい出会いのとき。例年と同じ行事の繰り返しの中にさえ、新入生、新教員、新支援室メンバーを迎え、違った光景が数々登場します。繰り返しであるからこそ、常に人間的な繋がりを意識し、心の存在を感じ合える仕事のあり方をめざしたいものです。時には振り返り、そして先を見据えて。

若手のキャリアパス形成を目指して

教務助教

キャリアパス形成の一環として今年度も教務助教４名が採用されました。助教をリーダーとし、５名のチームで１年生対象の数学演習を担当しています。また、合同オフィスアワー・Cafe David にも積極的に参加しています。大学で学ぶ数学のGatewayとしての演習を、入学したばかりの１年生に教えることや、数学や大学生活に関する質問などに気軽に答える場としてのCafe David に参加するなど、４人共通の仕事に加えて、彼らが日頃どのような活動をしているのか、１週間の特徴的な活動をそれぞれの教務助教に様々な角度から説明をしていただきました。　片田栄里

■主な活動（※４人の時間割を平均したものなので、特定の一人ではありません。）

月	10:30～12:00	講義（数学演習Ⅰ）
火	16:30～18:00	研究セミナー
水		学外で非常勤講師
木	12:00～13:30	Cafe David
金	10:00～11:00	TA との打ち合わせ
土	15:00～17:00	テニス

残りの時間は研究をしている。

足立真訓（主に演習や研究について）

講義風景（足立さん）

数学演習では、「数会話」の練習になるよう学生に質問を促す点が工夫のしどころです。高校から大学への接続で重要な点だと思います。授業以外は、個人研究が一番のお仕事ですが、他の教員や院生との日常の「数会話」から大いに刺激とヒントを得ています。

恩田健介（主に非常勤講師について）

週に一度、高専で非常勤をしています。微分方程式やフーリエ変換を教えています。私の教えている学校は名古屋市外ですので通勤が大変です。地下鉄やバスを乗り継いで約2時間掛けて学校に行き、往復で4時間近く使います。授業時間と同じくらいの通勤時間になってしまい大変です。通勤中の電車内では勉強するときもあれば頭を休める時間にしたりと、その時々で有効活用してます。

斎藤克典（主にカフェダビッドや研究について）

質問に答える斉藤さん

週に一度、昼休みにカフェダビッドを担当しています。そこに来ている学生や先生とコーヒーを飲みながら様々な話をするのは、良い気分転換にもなります。また、そこで話した数学の話題からセミナーを始めたりするなど、研究をする上でも有意義な時間になっています。ですのでカフェダビッドには担当曜日に限らず、時間があるときには積極的に顔を出しています。

田中祐二（主にTAについて）

数理学科の他の多くの講義・演習と同様、この1年生向けの数学演習ⅠにもTAの方々がいらっしゃいます。それらTAの方々は演習の時間内およびカフェ・ダヴィッドでの質問の受け答え、さらには宿題の採点・添削等を通してこの演習を支えて下さっています。

Young Leaders Cultivation

YLC 特任助教

左:米澤さん　右:加藤さん

YLCプログラムは、名古屋大学において、教育研究を将来にわたり継続的に発展させるためには、若手教員、特に助教クラスの質的、量的な確保が重要であることをふまえ、大学全体として継続的かつ計画的に若手教員を採用、養成するために実施する戦略的なプログラムです。（名古屋大学高等教育院HPより）
多元数理科学研究科で学位を取得した２人が今年度からYLC特任助教として採用されました。教務助教とのしての経験もある彼らは、自身の研究活動に加え今期の基礎演習クラスをサポートするなど教育活動も行なっています。また、５月30日に開催された「ノーベル賞受賞者・小林誠先生を招いての談話会（高等研究院主催）」では加藤孝盛さんが講演を行いました。　片田栄里

●加藤孝盛（2011年3月学位取得）

YLC教員は研究に専念する時間を十分与えて頂けるので，この期間中に留学など経て将来の研究の方向性を決め、その基礎を作りたいと考えています。私の研究題材は「非線形分散型方程式の可解性の解明」であり、この分野はフィールズ賞者である J. Bourgain や T. Tao らの研究により近年急速に発展してきています。本分野における私の目的は、今まで基礎となってきた単なる摂動法の枠組みを超え方程式の構造を反映した手法を構築することです。

●米澤康好（2009年10月学位取得）

学位取得後、MSRI（アメリカ、バークレー）、Algarve大学（ポルトガル）、Bonn大学、マックスプランク研究所（共にドイツ）で約二年間の海外生活を経て24年度に多元数理の教務助教として名古屋大学に戻ってまいりました。今年度からはYLC特任助教として引き続き多元数理で研究できることに喜びを感じております。頑張ります。

STA

STAは予備テストに合格することを目的とする補習クラスを指導補助します。予備テストとは大学院前期課程の学生が数学の基礎能力が身に付いているか確認する試験です。今年度のSTAは大学院後期課程３年の鈴木直矢さんと、後期課程２年の永田義一さんが担当します。お二人にSTAの仕事に関する事、ご自身の研究活動についてお話を伺いました。　田中美穂子

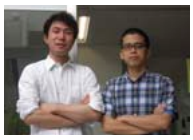
▶STAの仕事について

補習クラスではレポートの一部の採点を引き受けさせて頂いております。自分の事は完全に棚に上げてしまいますが、数学で大事な事は知識を丸暗記することではなく、何が仮定で、何を主張しようとしているのか論理的に考え明確に説明することだと考えております。それは、アカデミックな道以外に進まれる場合であっても数学科卒の人に要求される事だと思われます。その様な事ができる力を身につける為の訓練の一環として、補習クラスが役に立てば良いのではないかと個人的には考えております。　鈴木直矢

入学までに基礎的な科目の理解が十分でなかった学生に繰り返し問題を解いてもらい、内容の理解と論理的に解答を書く力を身につけてもらうためのクラスです。このため、採点は厳しく小さな間違いでも再提出になりますが、すべて解き終えればテストに合格することも難しくないと思います。これまでに5回ほど授業がありました。これまではあまり邪魔をしないように静かにまわって様子を見ていましたが、不合格者が出ないように鉛筆が止まっている人には声 をかけていこうと思っています。　永田義一

▶最近の研究活動について

5月にアメリカのVanderbilt大学で行われた研究集会に参加して参りました。私が今後研究したいと考えておりますtwisted K-theoryやT-dualityに関しまして、著名な先生方のハイレベルな講演を数多く聞く事ができました。　鈴木直矢


左:永田さん　右:鈴木さん

専門は多変数関数論です。先日、東大で小林昭七先生の追悼研究集会があり講演を聴きに行ってきました。小林先生の書かれた微分幾何、複素幾何の教科書や論文は非常にわかりやすく、重要な話題ばかりなので小林昭七ファンに なっていたのですが、生前にお会いすることができなかったので残念です。STAの研究費のおかげで他にもいくつかの研究集会に参加できるので、感謝しております。　永田義一

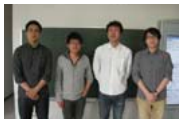
2013年度学生プロジェクト始動!

2013年度も15件のプロジェクトが採択され、活動を開始しました。 松久聖子

研究課題 Research about Cluster Categories and Triangulations of Surfaces
代表者名 Luo Xueyu(D3)
メンバー構成 Hyunmi Park(D3)

研究概要 To each triangulation of a bordered surface with marked points Labardini-Fragoso associates a potential on the corresponding quiver. Indeed, each interior triangle of the triangulation yields an oriented triangle in the quiver, and each puncture has an oriented cycle of the quiver around it. He adds those oriented triangles and cycles to get the potential. We extend the construction, and given a triangulation of a regular polygon with n vertices, we associate a quiver with potential with frozen vertices such that the associated Jacobian algebra has the structure of an R-order denoted as Λ_n, where $R:=K[x]$ is the polynomial ring over a field K. Then we can show that the cluster category of type A_{n-3} is equivalent to the stable category of the category of Cohen-Macaulay Λ_n-modules. We plan to attend the 16'th general meeting of European Women in Mathematics (EWM). One of the invited lecturers, Professor Karin Baur, studies cluster algebras, cluster categories, categorifications of representations and so on. This time, she will give a talk about "Cluster algebras and triangulations of surfaces" in the meeting. In her talk, she will provide basic examples of cluster algebras and explain how they arise from triangulations of surfaces.

研究課題 Young Mathematician Workshop on Several Complex Variables 2013
代表者名 Xu Liu(D3)
メンバー構成 Xin Dong(D1), Hiroki Fujino(M2), Yoshikazu Nagata(D2)



研究概要 Last year, with the help of gakusei project, a team of four Ph.D. students from Nagoya University attended an international conference on SCV in Kaifeng, China and then held a workshop at Tongji University with Chinese young mathematicians. We did fruitful communications and it proved to be very helpful for our studies. This year we plan to invite some Chinese and Korean researchers and hold a similar workshop at Naogya. Many related topics will be covered this time. We expect that it could serve as a platform for participators to show their studies, discuss and exchange ideas and informations, look for collaborators etc.

研究課題 Lagrangian部分多様体におけるmean curvature flow
代表者名 岩崎拓哉(D3)
メンバー構成 若杉与志夫(D3), 小林達彦(D3)

研究概要 本プロジェクトでは、昨年に引き続きLagrangian mean curvature flow(LMCF) の研究を行う。昨年の経験を生かして、複素射影空間に埋め込まれたトーラス上のLMCFの研究をしていく。

研究課題 構成的数学とその周辺
代表者名 佐藤雅大(D3)
メンバー構成 田中健策(D3), 倉永崇(D3), 才川隆文(D3)

研究概要 構成的数学とは数学基礎論の一分野であり"定理を証明する際に背理法を認めな い"という制限された体系下で数学の議論を試みる分野である。本プロジェクトメンバーは既に名古屋大学の情報科学研究科(数学の哲学および集合論専攻)・北陸先端科学技術大学院大学の研究室と去年度からの交流を持っており、今年度 も継続して共に活動していく予定である。

研究課題 数論幾何学における位相幾何的方法
代表者名 郡田亨(D1)
メンバー構成 西陽平(D1), 仲里渓(D1), 堀内遼(M2), 丸山貴志(D2), 舘野荘平(M2)

研究概要 主な活動内容は、各自が興味を持った研究集会に参加し、見識を広めることで学位論文の作成に結びつけることです。また、本プロジェクトのメンバーは数論幾何を中心に学ぶ者と位相幾何を中心に学ぶ者からなるので、それをいかして、2つの分野が交錯するテーマで週一回の勉強会も開催しています。

研究課題 楕円型方程式と幾何学の研究
代表者名 永田義一 (D2)
メンバー構成 大城和秀(D2), 加藤睦也(D1), 木下真也(M2), 黒川将大(M2), 森重拓也(M2), 藤野弘基(M2), 長谷川裕紀(M1)

研究概要 メンバーは解析を用いた研究をしているのが共通点で、このプロジェクトでは楕円型方程 式の教科書をセミナーで読んでいます。また、予算をいただいたので海外の研究集会に参加したいと思っています。

研究課題 多重ゼータ関数とその周辺
代表者名 松岡謙晶(D2)
メンバー構成 池田創一(D2), 大城和秀(D2), 小松龍矢(M2)

研究概要 この学生プロジェクトは、多重ゼータ関数を研究する学生プロジェクトです。構成メンバーの専門分野が異なりますが、お互いに協力しながらプロジェクトを進めていきたいです。

研究課題 正標数の特異点と数値的不変量の研究
代表者名 中嶋祐介
メンバー構成 白土智彬(D1)

研究概要 本プロジェクトではフロベニウス写像を用いて定義される正標数の特異点の研究 を行う。特に特異点のクラスを特徴付ける数値的不変量に注目することで、各クラスの性質や標数0の特異点との関係を理解することを目標とする。

研究課題 数論的な体の総合研究
代表者名 平島拓真(D2)
メンバー構成 小松龍矢(M2), 平井卓也(M2), 島田祐一(D2), 松岡謙晶(D2), 高橋祐人(D3)

研究概要 本プロジェクトでは、「鏡ヶ池の整数論セミナー」を開催する。整数論の様々な分野を専攻しているメンバーが集まり、周辺分野の知見を広めるとともに、自らの研究を他の視点より見つめ直し、深めることを目的としています。

研究課題 非線型分散型方程式の適切性と解の漸近挙動
代表者名 平山 浩之 (D3)
メンバー構成 伊藤 大貴(D1),加藤 勲(D1), 徳増 孝信(M2)

研究概要 本プロジェクトでは、流体力学やプラズマ物理 などに背景を持つ非線型分散型方程式についての 研究を行う。方程式の構造を反映させた解析を行う ことで、可解性や解の振舞い等の性質を明らかに することを目的とする。

研究課題 作用素環のK群を用いて一般化された index problem
代表者名 瀬戸 樹 (D1)
メンバー構成 鈴木 直矢 (D3), 松岡 勇気 (M2)

研究概要 指数定理とその作用素環を用いた一般化をテーマとして、プロジェクトを活用していきます。5月上旬には、アメリカでの研究集会に参加してきました。参加した研究集会を生かせるようなセミナーを行おうと考えています。

研究課題 ゼータ関数の世界
代表者名 田中諒(D1)
メンバー構成 若狭尊裕(D3), 小野塚友一(D1), 吉田繁広(D1), 一階智弘(M1), 門田慎也(M1)

研究概要 本プロジェクトでは、解析数論、特にゼータ関数に関連した研究を行う。ゼータ関数には多くの種類があり、これらは互いに密接に関係している。本プロジェク トは、そんなゼータ関数の様々な研究集会に参加、また企画・運営し、情報収集や意見交換を行うことで、各々の研究の一助とすることを目的としている。

研究課題 Bergman Kernel and its applications to geometry
代表者名 董 欣 (D1)
メンバー構成 藤野弘基 (M2), 李 娜 (D3), 劉 旭 (D3), 永田義一 (D2), 高橋良輔 (D1)

研究概要 Our project aim is to study the Bergman kernel from various viewpoints such as reproducing properties, analytical estimates, variation formulas, and stochastical analysis, together with its applications to geometry. Although each individual pursues his/her own research, we will have a weekly seminar together. Further we plan to have another monthly seminar especially for N. Li and R. Takahashi to report and discuss their works in progress with the other members. We also plan to attend some conferences/workshops to present our results, exchange ideas, and catch up with new things.

研究課題 CROSSOVER KLR
代表者名 小西 正秀 (D2)
メンバー構成 足立 崇英 (D3), 大島 一晃 (M1), 木村 雄太 (M1), 平子 裕記 (M1)

研究概要 KLR代数という若くてホットな対象を多角的な視点から捉えることを目的とした企画です。定期的にセミナーを行っていますので、興味のある方は是非お越し下さい。貴方の参加で何かが起きる、かも知れません。

研究課題 Categorification Summer School
代表者名 小西 正秀 (D2)
メンバー構成 小西 正秀 (D2)

研究概要 来る八月六日と七日に、量子群の圏化とKLR代数についての勉強会を開催します。この分野の研究者が一堂に会するまたとない機会です。初日に入門的な講演が行われますので、知らないけれど興味があるという方もお気軽にご参加下さい。

研究課題 Asymptotically Anti-de Sitter space と相対性理論
代表者名 三浦 隆生 (D3)
メンバー構成 富川 祥宗 (D1)

研究概要 相対性理論、特に宇宙定数を負としたアインシュタイン方程式や宇宙論と深い関わりを持つ Asymptotically Anti-de Sitter spaceと呼ばれる空間の幾何学に関する研究を行う。

Professor Pierre Cartier 講演会
「時代を語る」

2013年6月12日(水)、ブルバキ誕生時のメンバーで現在も活発に研究を続けておられるフランスのPierre Cartier 先生の名古屋ご滞在を記念して、「Professor Pierre Cartier 講演会」が開催されました。心配された季節外れの台風接近も免れ、名古屋大学内外から約130名の参加者を得て、3人の方々の興味深い講演が行なわれました。
講演会当日のカルティエ先生への事前インタビュー、3人の方々の講演の模様は、多元数理科学研究科のウェブページから配信予定となっています。
また、講演に先立ち東京で開かれた『ブルバキ----数学者達の秘密結社』の翻訳者、高橋礼司先生との対談は「数学セミナー10月号」で紹介されます。

■ 講演タイトル

Pierre Cartier (IHES)
The Great Mathematical Revolution
of the 20th Century
by Hilbert and Bourbaki: Where Are We Now?

Prof. Pierre Cartier

青本 和彦(名古屋大学名誉教授)
「J. Mather の定理と中山の補題
(パリ・IHES の一風景, 1967-1968)」

青本 和彦氏

稲葉 延子(カリタス女子短期大学教授)
「ヴェイユ家の物語」

稲葉 延子氏

人の心をゆすぶるもの

40年以上も数学教室にいても、「経を読めない門前の小僧」で、ひたすらでまっすぐな数学者(あるいは研究者と言うべきかも知れないが)を敬愛するのみ。研究集会の裏方を何度務めても、数学がわからない私には、講演がたとえ日本語であっても、知らない言語で話されているに等しい。しかし、今回の「Professor Pierre Cartier 講演会」の準備や講演者の方々とのやりとりを通して、それぞれの方の心意気から私自身少なからず「心の振幅」を感じた

希望は年代、時代を越えて誰にも与えられた恵みであること
ぶれない軸を持つことの美しさ
ひとつの勇気が道を開くこと

カルティエ先生のホストであった梅村浩名誉教授は「恐れないで勇気を持って進んでほしい」というカルティエ先生の若者へのメッセージに感動したと言う。
「教育」と「研究」を「支援」する者のひとりとして、そのやりがいと面白さを改めて実感したイベントであった。　　教育研究支援室　小崎和子

第5回 留学生交流イベント

大学祭の初日に、国際交流ラウンジにて「ミニプレゼンテーション」と「たこ焼きパーティー」を開催しました。

前半は「ミニプレゼンテーション」…各国から5人の学生が参加し、小道具やPCを用いてのそれぞれ個性溢れるプレゼンに皆興味深く耳を傾けていました。その都度、沢山の質問が飛び交い、発表側も聴衆側もとても刺激になり勉強になったようです。こういう機会を活用することにより、更なる飛躍を遂げることでしょう。

ミニプレゼンテーション

後半はテラスで「たこ焼きパーティー」…たこ焼き初体験の留学生も、上手に焼いて沢山食べていました。秘伝のレシピで作られたたこ焼きは「美味しい」と大好評で、大盛況の交流のひとときとなりました。
次回は11月開催の予定です。　　上野真紀子

たこ焼きパーティー

JIRプログラム
「なんでそんなことしたいのか」を伝える

日経サイエンス　古田彩

専門家のみが知る科学の美味しいところだけちょこっとつまみ食いし、多くの人に味わってもらう。それが私の仕事であり、編集に携わる科学誌「日経サイエンス」の目的である。だが数学という分野で、果たして可能だろうか?
その答えを探ってみたいというのが、今回「ジャーナリスト・イン・レジデンス」という、数学の研究機関に居候して取材させて頂くプログラムに参加した理由だった。そして多元数理科学研究科に、8日間にわたってお世話になった。
科学記事を書くときの最大のハードルは、「なんでそんなことしたいのか」という動機を読者に想像してもらうことにある。私は日ごろ主に物理について書いているが、物理学者の動機は、煎じつめれば「宇宙はどんな形をしているのか」「なんで超伝導の電流は流れ続けるのか」といった、素人でも抱く疑問に帰着する。実際の研究は単純ではないが、動機さえ納得して頂ければ、あとはどうにかなる。
ところが数学はそうでない。今回お会いしたある数学者の方は、いみじくもこうおっしゃった。「わけのわからないAから、わけのわからないBを使って、わけのわからないCを導いた、という話ですよねえ」。確かにその通りで、研究の内容以前に、そもそも何がしたいのか想像できないのだ。
多元数理科学研究科と、その前に滞在した京都大学で十数人の数学者にインタビューして感じたのは、数学者にとっての数学的な構造というのは、現実に存在するということである。人間が頭の中に描いたものではなく、この宇宙に組み込まれた何かであって、人間はそれを発見しているという感覚を、多くの人が持っている。
だがその数学的な構造は、数学者にしか見えない。宇宙や電子が我々にも何かのイメージを結ぶのに対し、数学の構造は数学をする人にのみ開かれている。それ以外の一般人が研究の動機を想像する方法は、おそらく数学自体ではなく、数学者の目に数学がどう見えているかを語ることだろう。多分そこに「数学の世界をつまみ食いする」ヒントがあると感じた滞在であった。

第9回 名古屋大学ホームカミングデイ

2013年10月19日(土)

多元数理科学研究科／理学部数理学科の保護者対象企画として

保護者向け就職セミナー
── 卒業生の進路、および、就職活動支援態勢について ──

を開催します。田中祐一氏(理学部数学科　平成2年卒)を講師にお迎えし、連携講義の講師を7年間務め,就活生の進路相談に携わった経験から
・数理学科／多元数理科学研究科の学生の主な進路
・就職活動支援態勢
・保護者の方にお願いしたいこと
などについてお話いただきます。

また同窓会企画として

講演:数学科出身者は数学教育に向いていない?

を実施します。志田晶氏(理学研究科数学専攻出身、東進ハイスクール・東進衛星予備校数学科講師／(株)シュヴァル・プラン　代表取締役)をお招きし、数学科出身者が教育の現場でもっと多く活躍することが、教育の質を上げることにつながるにもかかわらず、そうなっていない原因とはなにか、そしてその解決方法についてご講演いただきます。また、講演に引き続き優秀な学生・若手研究者の奨励のための学生奨励賞(通称「飛田賞」)の第2回授賞式を行います。　　同窓会事務局

多元数理科学研究科より

平成25年度「数学アゴラ」のご案内

今年も数学とその応用に興味を持つ高校生、高校教員および社会人を対象にした公開講座（数学アゴラ）が8月に開催されます。多元数理科学研究科の教員達が、平易な言葉で数理科学について語ります。総合演習日・講座別発表会準備の日を設けて、受講者へプレゼンテーションの仕方も指導し、参加型のより深い理解への到達を目指します。

日時
講義　平成25年8月6日㈫～8日㈭
総合演習日・講座別発表会準備　8月26日㈪

プログラム
吉田伸生　教　授　　パーコレーションの初歩
林　正人　教　授　　光による暗号と模擬実験＜量子暗号＞
川村友美　准教授　　結び目で数学

◎申込み方法等数学アゴラに関する詳細は
http://www.math.nagoya-u.ac.jp/ja/public/agora/agora-2013.html をご覧ください。

平成25年度名古屋大学大学院入試説明会
（情報科学研究科計算機数理科学専攻と合同開催）

今年は初めて開催の岡山を含めて4ヶ所で開催しました。名古屋会場には65名を超える参加があり、熱心に説明に聞き入る姿が印象的でした。

5月25日（土）　名古屋（多元数理科学棟）
5月31日（金）　京　都（ハートピア）
6月 1日（土）　東　京（八重洲ホール）
6月 8日（土）　岡　山（第一セントラルビル）

院生室訪問

院生室訪問

5月下旬に「院生室訪問」を実施しました。「院生室訪問」では、快適な学習・研究環境の提供ができるよう、利用状況の確認と学生からの要望や意見の調査を行なっています。整理はされているか?危険なものはないか? など1部屋づつ丁寧にチェックし、公共の場としてふさわしい状態となるよう心掛けています。これから暑い季節になりますので、利用者の皆さんは食品の管理にくれぐれもお気をつけください。また、院生室の修繕・不足品の補充は随時行なっています。困ったことがあれば支援室までご連絡ください。　片田栄里

新しい年度を迎えて

数理学科ガイダンス　3/15
多元数理科学研究科ガイダンス　4/5
予備テスト／計算機室ガイダンス　4/8

大学院ガイダンスの様子

新たな年度を迎え、講義概要／大学での学び方、大学院進学、就職、支援体制等、学部・大学院生活を送る上での必要事項説明を実施しました。又、主に新M1を対象にした「予備テスト」（講義や少人数クラス受講の為、基礎能力を確認するもの）や、計算機室や図書利用方法の説明も行われました。学科／大学院ガイダンスには全体を通して約8割、計算機室ガイダンスには約9割の学生が出席しました。終了後には集合／個人写真撮影、新入生歓迎パーティーも開催され、教員・学生参加、それぞれの親交を深める賑やかなひとときとなりました。　隠家英子

教員採用試験合格を目指して　5/11

先輩からのアドバイスを聞く参加者

教員採用試験に合格した数理学科の卒業生を講師に迎えて、自身の体験をもとに、教員採用試験合格を目指す後輩のためにアドバイスを行う講義を今年も開催しています。第1回目は1次試験、2次試験の内容とその対策、主に筆記試験についての説明を行いました。第2回目は7月の一次試験後に実践練習と2次試験対策について説明を行なう予定です。生の体験談、具体的なアドバイスが、参加者に大変好評です。　小崎和子

進路指導・キャリア教育支援

後輩へのアドバイスを語る卒業生／修了生

進路指導・キャリア教育支援の一環として6月7日（金）に「働くこと＆インターンシップ」が行われました。毎年、先輩方の体験談を通じて学生自身が己の将来を考える一助となることを願って開催しています。今回は15社のOBの方々からお話を伺うことができました。資料では分からない社会でのご苦労や雰囲気を直に聞くことは、通常の企業案内よりも価値のあるものです。また、会の終了後には卒業生と在校生を繋ぐ目的で「ミニ同窓会」を開催しました。学生が実社会で活躍している方々に直接話しかける良い機会となりました。　田中美穂子

教育研究支援室より

「たった一言が　人の心を傷つける　たった一言が　人の心を暖める」
うちの壁に昔からずーっと貼ってある言葉です。
ここ教育研究支援室には学生、教職員はもちろんのこと、業者の方、国内外からの研究者など、さまざまなお客様がやってきます。毎日顔を合わせる家族や、自分自身の考えていることさえ、ときにはわからないこともあるのに、ましてや頻繁には会わない人、初めて会う人にはどんな一言が最適なのか…　要求を即座に正確に理解できているのだろうか…　大学で働き始めて何年も経ちましたが、いまだに難しいと感じます。どうにかして気持ちの共有をはかれないかと日々奮闘中の私たち。支援室のカウンターにアンケートが設置されていることをご存知の方はどれくらいいらっしゃるでしょうか?　何気ない一言で傷つけてしまったこともあるでしょう。そんなときや、反対に嬉しいと感じていただけたことがあるときも、みなさんの心の声を支援室に届けに来てください。本当は気持ちを察することができるのが一番いいのかも知れません。みなさんの心をぽっと暖められるような一人前の理解者になるまでは、思っていることを直接教えていただけると有り難いです。　渡辺ゆかり

編集後記

多元数理科学研究科の入り口付近には、ヒトツバタゴ（別名ナンジャモンジャ）の木が何本も植えられています。落葉樹であるため、4月の初めには葉もなかったのですが、春の訪れとともに芽吹き、葉が開き、5月の初めには真っ白な花を咲かせました。そして今は花が終わり、青々とした葉が元気に風に揺れています。日々慌ただしく、気がつけばあっという間に一日が終わっているということになりがちですが、毎日は確実に時間が過ぎて、変化しています。忙しいながらも一日一日を大切にして、充実した日々を送ってほしいと思います。　松久聖子

名古屋大学 大学院多元数理科学研究科
〒464-8602 名古屋市千種区不老町
TEL（052）789-2833　FAX（052）789-5397

企画編集　教育研究支援室